

安寧



兵庫縣姫路護國神社社報
「安寧」第二号

発行所 兵庫縣姫路護國神社

〒670-0003 姫路市本町一丁目八
電話 〇七九一三三四〇八九六

安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なこと

英靈の言乃葉

僕は唱歌が下手でした

陸軍憲兵曹長 佐藤源治 命

昭和二十三年九月二十二日
ジャワ島バタビヤにて法務死

一、僕は唱歌が下手でした
通信簿の乙一つ

いまいまして人に知れず
お稽古すると母さんが

やさしく教へてくれました

二、兄弟みんな下手でした
僕も弟も妹も

唱歌の時間は泣きながら
歌へばみんなも先生も

笑って「やめ」といひました

三、故郷を出てから十二年
冷たい風の獄の窓

虫の音聞いて月を見て
母さん恋しと歌ったら

みんなが泣いて聞きました

四、僕のこの歌聞いたなら
母さんきつとうれしさに

頬すり寄せて抱き寄せて
「上手になった良い子だ」と

ほめて下さることです

田母神俊雄氏 正式参拝

平成二十二年十一月二十三日前航空幕僚長の田母神俊雄氏が当神社を正式参拝されました。参拝後、氏は社殿前で姫路の若者に対して田母神談話を発信されました。また、崇敬奉賛会にも入会していただきました。



姫路護國神社崇敬奉賛会後援 田母神俊雄講演会



平成二十二年十一月二十三日姫路市市民会館で崇敬奉賛会後援の「姫路田母神塾」と題した前航空幕僚長田母神俊雄氏の講演会が開催された。会場にはたくさんの方々が参加し熱気溢れる講演会になった。来場者数は九百人を越え、立ち見の人でも大勢いた。講演を聞いた若者からは、「田母神さんの話を聞いてよかったです。日本は素晴らしい国ということがわかりました。」「今まで勉強してきたのとは違った興味深い話だった。」「日本は素晴らしい国だったのですね。」という感想が届いた。氏は日本に誇りを持つことの大切さ、そして我が国は二千年以上の誇りある歴史を持つ国だということ、そしてその歴史を作ってきたのは靖国神社や護國神社に合祀されている我々の祖先だということを説明された。

田母神談話 (全文)

地球の世界史の流れの中で、白人主義の植民地支配に終止符を打って人種平等の世界を導いたというのが、日本が戦った第二次大戦であると思えます。もし、あの時日本が戦わないうという選択をしたら、恐らく日本も白人国家の植民地になって、そして白人国家の全世界植民地化計画が完成をして、我々が今日植民地で生活していた可能性が十分に高いわけでありませう。日本が最後の最後に立ち上がって、この戦争を戦い、日本は焼け野原になって多くの人が亡くなりましただけでも、日本が戦ったお陰で世界中の人達が現在、人種平等の世界で平和で豊かな生活が出来ているということだと思います。

我々は先祖の皆さん方が我々の為に戦ってくれたお陰で今日の平和で豊かな生活があるということに十分に感謝をして、そして日本の再興のために頑張るべきだと思います。近年、日本が侵略国であるとか悪い国であったとか言ったことが吹聴されていますけれども、真実の歴史は全く違ふと思います。歴史を抹殺された国民は衰退の一途をたどるのみであると思えます。我々は我々日本人が誇る真実の歴史を取り戻して、そして明日の世界の平和に向かって日本国民が大きく努力していくことが

必要であると思えます。

日本は古い歴史と優れた伝統を持つ素晴らしい国だと思います。我々日本人は自信を取り戻して、そして国のことは日本国民自身で決めて、素晴らしい日本を作り、また世界に貢献していくということを考えていくべきだと思います。ありがとうございました。

靖国神社崇敬奉賛会 青年部あさなぎ来姫



平成二十二年九月十八日あさなぎのメンバー十六名が当神社を訪れ正式参拝を行った。その後、当神社の歴史を説明する勉強会を催した。質疑応答では、泉宮司も返答に困るような場面もありあさなぎの若者達の勉強熱心さや見識の深さを実感することが出来た。その内容はあさなぎの季刊誌平成二十二年秋号(十九号)に掲載されている。
(次ページに原文のまま掲載しています。)

護國神社探訪 第十九社

兵庫縣 姫路 護國神社

一礼して石鳥居をくぐると左右に廻廊を広げた拝殿が現れる。強く明るくい日射しが、境内の玉砂利と参道の白さを際立たせていた。周囲の楠と檜の木々は、巨木というわけではないが、青々とした葉をたつぷりと繁らせ、社殿を囲んでいる。

正式参拝をするため拝殿に入った。殿内は陽光のあふれた境内から一変して仄暗くなり、幽寂たる気配が漂う。開始を告げる太鼓の音が響いた。死してなお、永久に日本を護りつづける英霊たちに、感謝の念を捧げる。兵庫縣姫路護國神社に鎮まる英霊(兵庫県西部地域出身者)五万六千九百余柱は、多くの人々に賑わう姫路城下の一角から、静かに県民を見護っていた。



沿革

文久三年(一八六三)、討幕の魁であった生野義拳は、失敗に終わる。同地には、これに参加し自刃した志士十三柱の忠骨を葬り、後に京都から送られた四柱を合祀した朝来山口招魂社が明治元年に建立された(同二十一年に官祭招魂社となる。現在は、山口護國神社。住所は、朝来市山口字上山二)。そのうち中島太郎兵衛命などの兵庫県西部地域出身者は、兵庫縣姫路護國神社の御祭神でもある。ちなみに、京都の池田屋事件で新選組と闘い惨殺された大高又次郎命、大高忠兵衛命(獄死)、今井三郎右衛門命(獄死)や、寺田屋事件で捕らえられ殺された千葉郁太郎命も姫路護國神社に祀られている。なお、兵庫県出身者として、明治新政府が公式に祀った最初の英霊は、戊辰戦争で官軍として戦死した三日月藩の仲井万太郎命である。

江戸時代末期、兵庫県には天領(幕府直轄地)のほか、十九もの藩が割拠していた。そして、幕末にはそれぞれが官軍と賊軍に分かれる。だが、賊軍とされた藩にも勤皇の志士たちがいた。この志士たちは国事に尽くし、野に屍をさらしたのである。姫路藩の藩主、酒井忠積公

は「我家はもと徳川譜代の臣なり、徳川氏と存亡をと共にすべし」という考えだが、尊皇派の藩士たちが説く尊皇攘夷の大義にも、理解を示していた。だが、藩主を見限ったふたりの脱藩者がでると、尊皇派の弾圧が始まる。甲子の獄である。元治元年(一八六四)、脱藩した河合傳十郎と江坂榮次郎は、斬首された。死刑となった六名の藩士たちは、切腹と介錯を許されず、自ら刃を喉に突き刺した。そのため即死せず、何度も喉を突いた。その光景は凄惨を極めたという。ほかに切腹した藩士も一人いるが、皆、姫路護國神社に祀られている(辞世を十四ページに掲載)。姫路藩尊皇派の中心だった河合惣兵衛は、京都で久坂玄瑞、宮部鼎蔵らと交わり、志士たちの間で「姫路には河合がいるから心配はない」と言われるほどの信頼を得ていた。明治四年には、地元で総社と呼ばれ親しまれている射楯兵主神社の境内に、招魂社(現在の祖霊堂)を建立し、八柱を祀った(後に当時の同志も祀る)。現在も、河合惣兵衛の子孫が年に一度、例祭に参列するという。

鳥羽・伏見の戦いで姫路藩は幕府方についた。以後、賊軍とされたまま明治維新を迎えたが、もともと勤皇思想は強い。そのため明治二年に全国でもっとも早く「版籍奉還」を明治新政府に上表したことは、姫路の尊皇精神を示す特筆すべき点である。明治七年の佐賀の役、その後西南戦争で、兵庫や播磨などの県民は歩兵第十聯隊に配属され(陸軍大飯鎮台の姫路営所所属。岡山と鳥取出身者もいた)出征した。このときの姫路営所所属の戦死者七百六十七名(という数は姫路出身者がいかに、賊軍の汚名をそそぐ)ため奮闘したかを想像させる。西南戦争の政府軍戦死者は六千八百余名)を追悼するため民間から義捐金を募り、明治十二年、姫路市の西端にある薬師山山頂に招魂記念碑を建立した。同十八年に姫路を巡幸された明治天皇はこれを嘉し、金戸を下賜されている。以来、毎年、五月五、六日にわたって第八旅団長を祭主として招魂祭を齎した。明治二十六年からは、第八旅団長と兵庫



現在、船場本徳寺の境内にある招魂碑

県知事を祭主とし、姫路城下の城南練兵場に祭場を移して、招魂祭をつづける。とくに同二十六年の招魂祭は、射楯兵主神社の二十一年ごとの臨時大祭と重なり、三万人以上が参列する賑わいを見せたという。

昭和十一年、常設の招魂社を求める声があがり、兵庫縣姫路招魂社造営奉賛会が発足する。兵庫縣知事が同会長に就任した。そして、昭和十三年、毎年、招魂祭を齎行していた地に、兵庫縣全域の英霊を祀る兵庫縣姫路招魂社が創建される(本来なら、兵庫縣招魂社となるはずだが、「姫路」が挿入された理由は不明である)。夜の鎮座祭では、喇叭隊により「國の鎮め」が吹奏され、遺族など二千人の参列者が見守るなか、英霊四千八百三十三柱の御霊が奉安された。

他県に比べ、創建がやや遅いのは、日露戦争以来、戦地から帰還した姫路出身者の遺骨が、いったん船場本徳寺に納められるのが通例となっていたため、同寺が菩提寺のような役割を果たしていたからだと推測する。また、日清、日露戦争の一部の戦死者が、射楯兵主神社の招魂社に祀られていた(百二十一柱)ことも影響したかもしれない。

姫路招魂社の祭式は、当初湊川神社の神主が務めた(余談だが、湊川神社の造営資金の大部分は、幕末、賊軍になった姫路藩が藩の存続を官軍に求めるため供出したという説がある※)。

昭和十四年には、内務省令により、兵庫縣姫路護國神社と改称した。

さて、現在、兵庫県には、兵庫縣姫路護國神社と兵庫縣神戸護國神社の二つの旧指定護國神社がある。姫路護國神社は、兵庫西部(播磨、但馬)出身の英霊を祀り、神戸護國神社は、兵庫東部(丹波、摂津、淡路)出身の英霊を祀っている。これは昭和十六年に、陸軍の管轄区域が変更されたことにともない、同年に神戸護國神社が創建されたからである。そのため姫路護國神社は、昭和十六年七月までは、兵庫県全域の戦死者を祀っていたが、以後は、西部地域出身者のみとなる。ただ、神戸護國神社は、幕末以来の東部地域出身者全員を祀っているため、同年七月以前に、姫路護國神社が合祀した東部地域出身者は、両方の護國神社で祀っている。当時、人間の勝手な都合で神様を分祀しなかったのである。

年間祭事歴

歳日祭	一月一日
新年万灯祭	一月一〜十日
建国記念日祭	二月十一日
春季慰霊祭	五月二日
大祓式	六月三十日
英霊感謝祭	八月十五日
秋季慰霊祭	十一月十日
七五三祭	十一月二十日
天長祭	十二月十三日
大祓式 除夜祭	十二月三十一日
月次祭	毎月一、十五日
命日祭	毎日(十時三十分より)



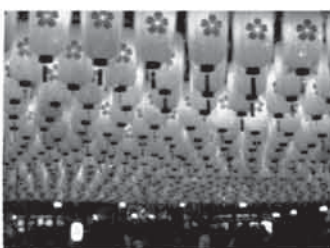
神田に田植えをする兵庫県民

昭和十五年には、一反歩(三百坪)の田んぼが、姫路護國神社に奉納され、毎年、田植祭が行われた。以来、日々の祭祀では、この神饌米を英霊に捧げていたが、終戦後は農地改革でこの神田を没収されてしまう。

戦時中は、神饌の野菜を手に入れるのにも難儀した。そのため、軍用地でもあった境内林の一部を畑にしていた(もともと姫路城下は、第十師団の関連施設や練兵場が多く、姫路護國神社もそのなかの一部だった)。

大東亜戦争中の姫路大空襲で、は、姫路城とともに奇跡的に被災を免れた。かつては「姫路城が空襲で炎上しなかったのは、米軍が日本の文化遺産を尊重したから」という妄説もあったが、単なる偶然である。ただ、空襲後、焼け野原となった街並みに茫然とする姫路市民が、当然燃えてなくなったと思っていた姫路城の屹然とそびえる姿を見て、感動し涙したという話を聞くと、あるいは偶然ではなく深い神意によるのかもしれない。

終戦後は、この戦災により県庁に保管していた姫路護國神社の関係書類が焼失し、境内地の所有権を証明するのに苦労する。結局、現在の境内地は無償で確保できたが、有償で払い下げられた分の資金が用意できず、商工会議所の施設となった。後に、施設は火事で焼失して、現在は城見台公園となっている。なお、現在の境内地は姫路城の特別史跡内に含まれるため、社殿や社務所の改修にも文化庁の厳しいチェックがある。慰霊祭などでテントを地面に張るときはピンまで許可が必要であり、トイレの改修にも二年を要したという。



万灯祭で境内を照らす献灯

神社の現況

戦前の例祭の参列者は一万人以上いたが、近來の春秋の慰霊祭では、八百人前後となった。昭和四十年ごろまでは、県知事も参拝しているが、現在は姿を見せず、慰霊文なるものだけが届けられる。昭和五十九年以降は、姫路市の主催する慰霊祭も姫路護國神社の境内から、市民会館に移動した。だが、陸上自衛隊姫路駐屯地の司令は、毎年参拝している(神社から駐屯地に出張し、新しい兵器のお祓いをすることもあるという)。

兵庫縣姫路護國神社所在地
〒670-0012 姫路市本町118

■ホームページアドレス
<http://www.shirasagino-miya.com>

■姫路駅より北(姫路城方向)へ徒歩15分。駐車場あり。

■電話 079-224-0896
■FAX 079-224-0885

神前結婚式は年間七十件ある。希望が多かった披露宴会場も二年前に備えた。なお、毎日ある命日祭を優先して奉仕するので、神前式は午後だけに齋行される。平成二十二年四月二十六日には、姫路護國神社崇敬奉賛会が発足した。戦友、遺族の高齢化や、戦後世代の英霊への意識の希薄化を念頭におき、英霊の顕彰を永続たらしめるためである。宮司の泉和慶氏は語る。「同志を募って、若いひとたち同士で研鑽を積んでください。若者たちの心配はしていません。期待しています。また、姫路は総社などの祭りも盛んです。日本の将来は大丈夫です」

近年は若者が戦死した自分の身内を訪ねてくることも多い。職業体験で巫女を希望した高校生に、日本神話を教えることもある。崇敬奉賛会に協力する若者もいる。将来、姫路の若者たちが、姫路護國神社のさらなる発展を実現するに違いない。

東日本大震災に英霊顕彰を想う

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛會

常任理事 二二 木英 一

国内観測史上初のマグニチュード9.0という未曾有の巨大地震と大津波が、東北地方を襲った。その上、福島第一原子力発電所において、日本初の非常に深刻な異常事態が発生した。被災地の多くの亡くなられた人々の御冥福を祈るとともに、被災者に心からの御見舞を申し上げ、一日も早い復旧のために、なんとか連帯感を持って、しっかりとした気持ちをもって立ち上がって下さるようお祈りするばかりである。

連日のTV画面に映る壊滅的な被害を受けた地域の、目を覆いたくなるような惨状を見る時、戦争中に体験した悪夢のような大空襲の中を、命からがら逃げ惑った少年時代の記憶と重なる。探し求めていた肉親との再会を喜ぶ場面があると思えば、片一方で遺体となった肉親との悲痛な対面など、まさに人生悲喜交々のシーンに胸が痛む。先の大戦中もそうであった。他県や海外からの救助隊が派遣されるわけはなく、支援物資も届くわけもない焼け野原から、当時の日本人は立ち上がったのである。

私自身のことを記して僭越であるが、大戦には敗れ、年を越えたが、昭和十

六年盛夏に満州の牡丹江へ出征していった父は帰らなかつた。南方のパラオ本島で亡くなっていたという公報が昭和二十一年春に届いた。十歳にして戸主になった私は貧窮のどん底で、幼い妹二人を抱え、悲嘆にくれる母を助けながら、戦後の様々の処理を行なつて生き抜いてきた。私の窮境などの及ばないもつと悲惨な体験をされた人は沢山居たのだ。

この百五十年に亘つて、日本の国難に際して、尊い命を捧げて戦い、私達の想像を絶する悲惨な戦場で散華された多くの英霊のことを思うと、胸が裂けそうである。護国の英霊のお蔭で、私達は今このように生かされていることに思いを至す日本人が、あまりにも少ないのは悲しいことである。

現在の日本の政治情勢は混乱し、民は政治に信を無くしてしまっている。人倫は荒廃し、日々異常な事件が続発している。現政権は首相以下全閣僚が靖國神社に参拝もしないという恥ずかしい状態である。昨年、映画やTVで放映された倉本總の『歸國』にあるごとく、あまりにも利己的な今の日本人や理不尽な日本社会の惨状に、英霊は

怒りと悲しみの中に呆然と立ち尽くさるであろう。

昨年は「教育二關スル勅語」（教育勅語）が渙発されて百二十年目の年であった。建国の歴史と十二の徳目を学び直し、天地大自然の目に見えない力に畏敬の念を持って、謙虚になり、陰徳を積んで、世直しに努めてゆきたいものである。

為政者やトップに立つ者の徳が薄くなると、災害が起こると言われる。自然科学が大いに発達し、生活は便利になり、原子力に頼らざるを得ない現状の中で今回の大震災は、罪も無い、精一杯に生きている多くの人達を犠牲にして、私達一人ひとりに、人間としての生き方、日本人としての生き方に大きな警鐘を鳴らしたように私は思う。この状況を救うには、先づ護国の英霊を顕彰し、御霊の安からんことを日夜祈ることから始めたい。私は毎朝、神仏に祈りを捧げ、皇居を遙拝して、「御皇室の弥栄と日本国の安泰、世界の平和」を祈念して、一日を出発している。父、母、妹、妻を亡くし、「愛別離苦」の悲しみを味わつた苦の多かった人生であったが、多くの御恩を頂いて、お蔭さまで本日満七十六歳を迎えることが出来たことに感謝し、分に応じて、世直しのために一燈照隅行に精進して参りたいと思う。
(辛卯弥生拾七日、喜寿を迎え、記す)

お正月



建国祭



日誌抄

二十二年七月
二十三年三月

平成二十二年

- 七月 三日 崇敬奉賛会事務打合せ会
- 七月 五日 青山繁晴氏正式参拝
- 七月 十九日 兵庫県日本会議総会(兵庫県民会館)
- 七月 二十八日 近畿護國神社会(大阪)
- 八月 七日 英霊にこたえる会西播正式参拝
- 八月 九日 日本会議中・西播磨支部役員会
- 八月 十二日 田母神塾打合せ会
- 八月 十五日 英霊感謝祭
- 八月 十八日 直階研修伊勢神宮参拝随員
- 八月 二十日 西宮神社(神宮大麻推進会議)
- 九月 四日 崇敬奉賛会社報編集会議
- 九月 六日 兵庫県神社関係者大会三田市へ
- 九月 八日 境内スローフード協会縁日
- 九月 九日 近畿女子神職の会(総社)
- 九月 十日 兵庫県遺族会西播ブロック女性部正式参拝
- 九月 十八日 田母神講演会打合せ
- 九月 十八日 靖国神社崇敬奉賛会
- 九月 二十五日 あさなぎ二十名来社正式参拝
- 九月 二十五日 日本会議講演会
- 十月 四日 神社本庁評議員会(東京)
- 十月 七日 徳久分会慰霊祭・田母神塾打合せ会
- 十月 十一日 海神社例祭参列
- 十月 十三日 曾根天満宮例祭参列
- 十月 十三日 佐用佐用地区慰霊祭
- 十月 二十四日 佐用三河地区慰霊祭
- 十月 二十七日 城東老人クラブ清掃奉仕・佐用中安分会慰霊祭
- 十月 二十八日 西庄地区慰霊祭
- 十月 二十九日 千種町慰霊祭
- 十一月 二日 秋季大祭
- 十一月 五日 田母神塾打合せ会
- 十一月 六日 神戸護國神社例祭
- 十一月 十日 佐用平福遺族会慰霊祭
- 十一月 十二日 上郡町大麻旗布祭

平成二十三年

- 十一月 十五日 総社霜月祭参列
- 十一月 二十一日 田母神講演会・市民会館
- 十一月 二十四日 姫路大麻旗布式
- 十一月 二十七日 日本会議講演会・役員会
- 十二月 二日 新穀感謝祭(伊勢神宮)
- 十二月 三日 新穀感謝祭(伊勢神宮)
- 十二月 四日 鳥居前給馬作成開始
- 十二月 九日 西宮日野神社本殿遷座奉幣奉祝祭
- 十二月 十三日 献灯架設置準備開始
- 十二月 二十三日 天皇誕生日正式参拝・清掃奉仕一〇〇名
- 十二月 二十五日 陸上自衛隊年末懇親会日航ホテル
- 一月 一日 歳旦祭・誌吟奉納・水上剣道奉納
- 一月 二日 姫路剣道連盟参拝
- 一月 五日 自衛隊姫路・加西市遺族会参拝
- 一月 八日 日本会議新年祈願祭
- 一月 十日 崇敬奉賛会新年祈願祭
- 一月 十一日 姫路遺族会・兵庫県神社庁姫路支部参拝
- 一月 十三日 提灯撤収
- 一月 十四日 ソンタクラブ祈願祭
- 一月 十五日 古札焼納
- 一月 十五日 戸井田事務所で宮司講演
- 一月 二十二日 姫路郷友会新年会・田母神塾決算実行委員会
- 一月 二十四日 姫路地区神社総代会常任理事会
- 一月 二十五日 姫路工業高校インターシップ五名来社
- 一月 三十日 瑞鳳吟詠会祈願祭
- 二月 十一日 建國祭
- 三月 一日 崇敬奉賛会運営委員会
- 三月 三日 (三木・阿比野・木南・前川・深田・田中・宮司)
- 三月 三日 全国護國神社会靖国神社出向
- 三月 十二日 神社総代会

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会會員募集

兵庫縣姫路護國神社を支える人が日々少なくなっています。

護國神社を未来永劫に支えてゆくために多くの方々から崇敬奉賛会に入会してほしいと願います。

それが、日本を支えることにもなります。